

公募展入選の37名の方々

副賞/キャレモジ高級小筆

- 秋元佐知子さん (神奈川県) 『拓』
- 秋山えい子さん (東京都) 『婦』
- 荒川和子さん (愛知県) 『花』
- 池辺ひろみさん (東京都) 『桜』
- 磯部裕子さん (兵庫県) 『無』
- 伊藤優子さん (東京都) 『宵』
- 岩田幸子さん (東京都) 『荳』
- 大崎幸子さん (埼玉県) 『壺』
- 金澤恵子さん (茨城県) 『花』
- 合木友理さん (愛知県) 『逢』
- 小竹紗代子さん (神奈川県) 『桜』
- 古藤由美子さん (東京都) 『秘』
- 斉藤玲子さん (東京都) 『紡』
- 新野さだ子さん (群馬県) 『悠久』
- 高木朝井さん (千葉県) 『凜』
- 高橋 愛さん (神奈川県) 『母』
- 高橋直子さん (新潟県) 『無』
- 田村静子さん (埼玉県) 『藍』
- 永井真紀子さん (愛知県) 『春』
- 中村悦乃さん (東京都) 『凜』
- 福井 有さん (兵庫県) 『有』
- 古田かおりさん (神奈川県) 『Voice』
- 堀 瑠美子さん (千葉県) 『響』
- 本田由香さん (長崎県) 『開』
- 前野朋子さん (東京都) 『舞』
- 辨谷真弓さん (東京都) 『宙』
- 増丸和江さん (神奈川県) 『桜』
- 間庭隆子さん (東京都) 『創』
- 丸山幸子さん (神奈川県) 『夢』
- 宮本典子さん (兵庫県) 『Amazing』
- 望月皓美さん (東京都) 『無』
- 望月皓美さん (東京都) 『さくら』
- 山口優子さん (東京都) 『動』
- 山中多喜子さん (大阪府) 『木偏』
- 山本由起さん (神奈川県) 『曼』
- 横倉恒雄さん (東京都) 『愚』
- 吉田直子さん (神奈川県) 『月』

4月号から9月号までの
ベスト賞の方々

- 4月号・望月皓美さん (東京都) 『桃』
- 5月号・桃谷雅子さん (山形県) 『花』
- 6月号・長富妙子さん (山口県) 『絆』
- 7月号・吉本美香さん (東京都) 『義』
- 8月号・石橋美智子さん (東京都) 『燦』
- 9月号・堀岡文子さん (滋賀県) 『Drip』

入賞作品の展覧会が開催されます!!



【日時】

2009年6月8日(月)～6月14日(日)
午前10:00～午後6:00

【場所】

ドマーニ 日本橋
(東京都中央区日本橋3-2-9三昌ビル1F・2F)
高級家具ブランドのショールームにて、
受賞者と入選者の作品を実際の
インテリア空間に展示。今回の公募展の
入賞作品が直接ご覧いただけます。

※入場無料

☎ Carré MOJI (キャレモジ)
東京都港区南青山5-11-24-3F

☎ 03-5766-7120

☎ 11:30～19:00 休日曜

http://www.carremoji.jp/



副賞/キャレモジ高級筆



ウリアム・リードさん [東京都] 作品名『耕』

『新年に偶然乗り合わせたタクシーの運転手さんに聞いた話にインスパイアされ、「耕」という字を書きました。彼の父上は、毎年その年がどういう年になるのかを古い師に聞いているのだとか。その古い師いわく、同じ「丑」年でも、毎回丑の性格が違って、今年の丑は、「耕」が、キーワードなのだという。いろいろなものがリセットされる大変な時代であると同時に、今蒔いている種から新しい芽が出ることに通じる年なのだ。この話を聞いて、なるほどと思った。逆にこの大変な時期を、希望を持って自分を耕し、自分を磨く年にしていこうと思い、「耕」の字を書きました。自分を磨く意味で、書も「耕」すことのひとつだと思っています』

海老原みさをさん

[東京都]

作品名『慈』

『邪心の無い心で優しく
相手を包み込みたい。そ
んな願いをこめて』



金本晶子さん

[東京都]

作品名『味』

『味覚だけでなく「そのもの」
のもっている趣や洒落
を表現しました。味わい、
味がある…』



青木欣美さん [大阪府] 作品名『桜』

『国立新美術館「加山又造展」で、彼の描いた桜の前で、その圧倒的な美しさに心を奪われた。歩きながら、私も自分の「桜」を無性に書いてみたくなった。可愛く繊細に強さも秘めて…。大好きなボルドーワインを愉しみながら、桜をゆったりと眺めてみたい。ふと、持っていたワイングラスの深いルビー色の一滴を私の書いた「桜」に落としてみた。すると、私の桜は、ぱっと満開となった』



坂井美穂さん

[広島県]

作品名『加』

『「加」という文字の造形を
自分の中で膨らませて、
空間を生かした作品にな
るよう心がけました』



古川信子さん

[東京都]

作品名『玄』

『幽玄の感覚を「玄」の
一文字に込めました』



城戸智子さん [福岡県] 作品名『宴』

『春といえば桜の季節。日本では花見という風流な遊びが昔から続いてきたが、桜の満開の時期は一年でもほんの僅か。その貴重な時期に心の通い合う仲間と宴を催し、はかない命の花を愛でながら、お酒で心をうちつけあうというも日本人ならではの遊びだろう。桜は古くから人を狂わせるといわれているらしい。桜のはかない美しさがお酒の力を借りて人を狂わせるのか。とにかく、あちこちの桜の木の下では皆、気持ちもおおらかに踊りだしたくなるような気分になるのは否めない。「宴」の作品は、墨の色を軽くして、夜桜というより春の心地よい日差しを浴びて満開の花を存分に味わいながら、少しほろ酔い気分の人々を表現してみました』



【審査を振り返って】キャレモジ代表・植野文隆

キャレモジ作品の2大要素「書としての完成度」と「デザイン性」の高さ&そのバランスを基本に、現代空間にインテリアとしてフィットする作品を選びました。質の高い作品が大変多く、その結果受賞・入選数を大幅に増やしました。それでも多数の優れた作品の入選を見送らざるを得ず、今後の課題になりました。受賞

作品には、完成度の高い作品が揃いました。応募作品の一般的な傾向として、2要素の片方に偏った作品が多く、両要素のレベルアップに一層の研鑽を期待しています。今後の制作のヒントとして、飾りたい空間からイメージして作品を創り出していく方法も試してみてください。

【審査員】

婦人画報：編集長/出口由美 編集長代理/桜井正朗 キャレモジ：書家/竹田華堂、清水恵、宮村弦 代表/植野